

【オンライン開催】

【集合開催】

開催日程 2日間（ZOOM配信）

開催日程 1泊2日（宿泊型）

	日程
第1回	10月 24日（月）～ 25日（火）
第2回	12月 12日（月）～ 13日（火）
第3回	2023年 1月 23日（月）～ 24日（火）

	日程	会場
第1回	9月 8日（木）～ 9日（金）	首都圏開催 （調整中）
第2回	11月 10日（木）～ 11日（金）	首都圏開催 （調整中）

Time Table

第1日	時間	内容
第1日	9:00	【研修開始】【オープニングオリエンテーション】 事務連絡、趣旨説明、全体自己紹介
	9:40	【導入フェーズ】他社の事業環境・マネジメントの現状を知る 《事前ワークシートを使った情報共有》
	10:10	グループ内で事前ワークシートの内容を発表 & 質疑応答
	11:30	【昼食】
	11:30	【展開フェーズ】これからのミドルマネジメントを考える 《これからのミドルマネジメントに問われる役割と取り組むべき課題を 考察する》
	12:20	グループ別討議テーマの設定 グループ討議【仮縫い討議】
	15:40	中間発表（経過報告）フィッシュボウル型討議
	17:30	ファシリテーターコメント グループ討議【本縫い討議】
	17:40	【談話室】～18:40【第1日終了】

第2日	時間	内容
第2日	9:00	【開始】 ファシリテーターコメント グループ討議【本縫い討議】
	10:50	最終発表（ラウンド型発表） ファシリテーターからのフィードバック
	12:30	【昼食】
	13:20	【集約フェーズ】myテーマの設定&相互支援 《一人ひとりの変革課題に対し、他社の視点からの支援を得る》 myテーマ設定
	14:30	myテーマのグループ内発表と相互フィードバック
	17:20	【クロージング&アンケート記入】
	17:30	【第2日終了】
	17:40	フリー談話室（任意参加）～18:40

Time Table

第1日	時間	内容
第1日	9:30	【集合】【オープニングオリエンテーション】 事務連絡、趣旨説明、自己紹介
	10:40	【導入フェーズ】他社の事業環境・マネジメントの現状を知る 《事前ワークシートを使った状況共有》
	12:00	【昼食】50分 《事前ワークシートを使った状況共有》（続き）
	14:20	【展開フェーズ】これからのミドルマネジメントを考える 《これからのミドルマネジメントに問われる役割と取り組むべき課題を 考察する》
	17:00	グループ別討議テーマの設定 グループ別討議
	18:20	中間発表 グループ別討議（続き）
	19:30	【夕食】
	20:20	【第1日終了・チェックイン】 【名刺交換会】研修室にて～21:20（最長22:00） ※飲食を伴う懇親会は行いません。

第2日	時間	内容
第2日	8:30	・【朝食】【チェックアウト】
	10:00	・【開始】 ・《これからのミドルマネジメント課題を考える》 ・グループ別討議（続き）
	11:30	・最終発表
	12:00	・【集約フェーズ】myテーマの設定&相互支援 ・《一人ひとりの変革課題に対し、他社の視点からの支援を得る》
	12:50	・Myテーマ設定
	13:30	・【昼食】50分
	16:30	・Myテーマ設定（続き）
	17:00	・Myテーマの発表と相互フィードバック ・「受講者一人ひとりのマネジメント課題にフォーカスしたグループ討議」
	17:00	・【クロージング&アンケート記入】
	17:00	・【第2日終了】【解散】

2022 ミドルクラス交流研修

新しいマネジメントスタイルの創造

BEAM CONSULTING GROUP



新型コロナウイルス感染拡大時のオンライン代替開催（集合開催⇒オンライン開催）のご案内

- 集合開催（1泊2日）については、新型コロナウイルスの感染が小康状態にあり、安全な受講環境が提供できる状況であれば、実施時に必要とされる然るべき感染防止対策を講じて予定通り「1泊2日」の宿泊型研修として実施致します。
- 感染が拡大し安全な受講環境の提供が難しいと判断した場合には、「オンライン代替開催（2日間）」に切り替えて実施致します。オンライン代替開催への変更の判断時期は、各開催の2ヶ月前を予定しております。但し、新型コロナウイルスの感染スピードを考慮し、開催直前で急速に状況が悪化した場合、2か月前を切っけからのオンライン代替開催への変更可能性もありますことご了承ください。
- 判断基準となる定量的な指標をお示しすることが難しい状況ですが、以下の開催条件に加えて、変異株の感染力や重症化率、ワクチン接種率等も含め総合的に勘案し、受講者の皆様の安全を最優先に判断を致します。
《集合開催を決定する際の条件》
 1. 東京をはじめとした首都圏・大都市圏での緊急事態宣言・まん延防止等重点措置など政府・自治体による移動・外出制限等の要請が解除されている ⇒ 感染者数・重症者数・病床利用率等が低い水準に抑えられている状況
 2. ご参加予定の複数の企業様が県境を越えた移動を解除し、研修施設への来場が可能になっている=研修実施可能な参加企業数・参加者数が担保されている（最少4社12名）
- 「代替開催」のプログラム内容・研修時間は、「オンライン開催」と同一になります。
- オンライン代替開催となった際の、別日程への変更や、ご参加をキャンセルされる場合はお申し付けください。※キャンセル料は発生致しません。



ビーム・コンサルティンググループ株式会社
〒160-0005 東京都新宿区愛住町22 オカビル
TEL 03(3354)2721 FAX 03(6273)2272
guest@beamcons.co.jp http://www.beamcons.co.jp

研修のねらいと期待する成果

事業環境が日々変化する中で、組織が最大限の力を発揮し、競争力を高めるには、ミドル層の役割が大きく影響してきます。現場の仕事に精通し、且つ、高い視点から事業の進捗を把握しているミドル層が、上下間だけでなく部門間のブリッジとなり、従来からの「内部管理」に加え、将来に向けての価値創造や変革を牽引するリーダーとしての役割を果たすことを期待されています。当研修では、予測が難しい事業環境下において、その変化に対応するための他社の最新のマネジメント事例に触れるとともに、受講者が抱えるマネジメント課題の解決策を、他社との交流を通じて模索していきます。

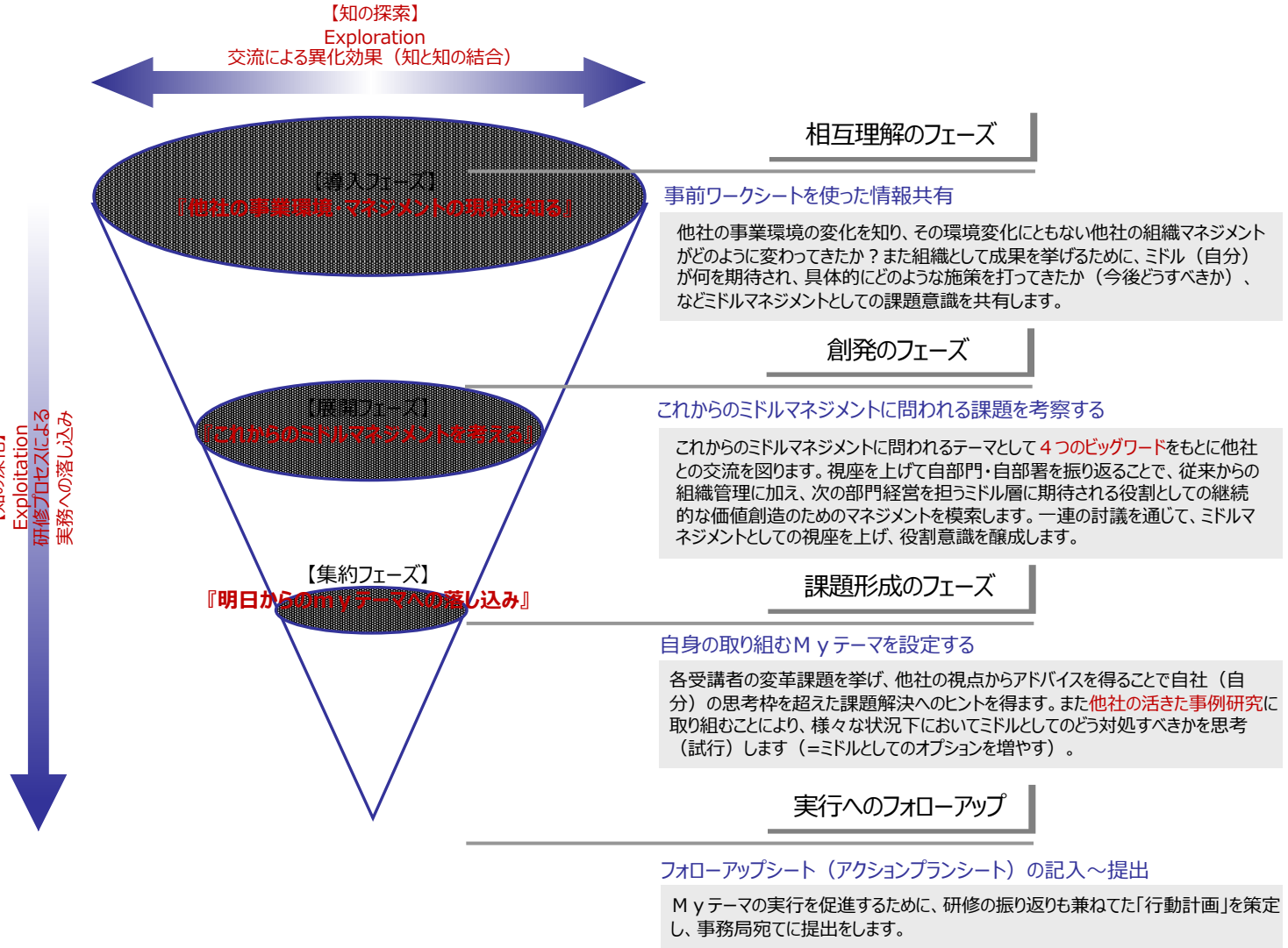
- 各業界を代表する企業における先端のマネジメント事例を知る
- ミドルマネジメントとしての役割・実行課題を明確にし、受講者のマネジメント上の課題に対し、他社の視点からその課題解決のヒントを得る
- 視点移動（自社内思考からの脱皮、部門最適から全体最適への思考転換）、視野拡大（マクロ環境に対する高いアンテナ）
- 他社社員との人的ネットワークの構築

コンセプトと研修フロー

“受講者が相互に学ぶ”、“相互にテキストとなる”研修

この研修では、各社のミドルマネジメントが持つ様々な知見を共有し、各受講者の課題解決のヒントを他社との交流討議を通じて獲得することを期待しています。講師から知識やフレームワークを学ぶのではなく、**受講者が“相互に学びあう”、“お互いにテキストになる”**研修です。

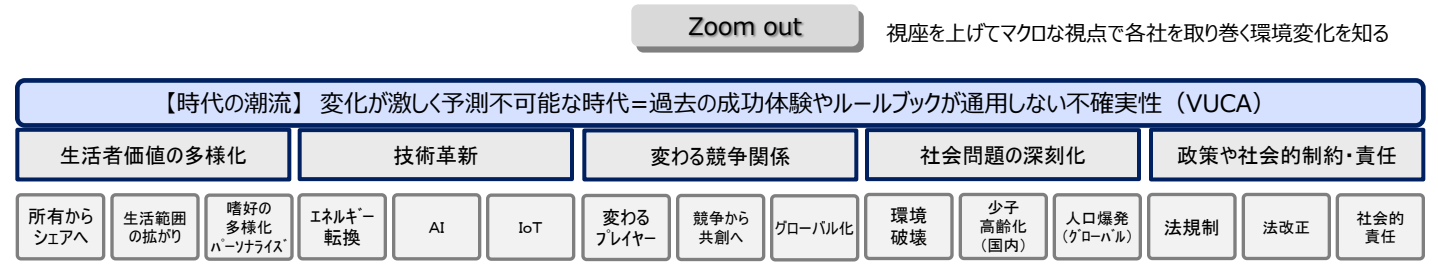
他社の仕事の仕方や仕組み、視点や発想を自らの資源として取り込み、自社（自部門・自部署・自分）の変革に活かすことを期待しています。



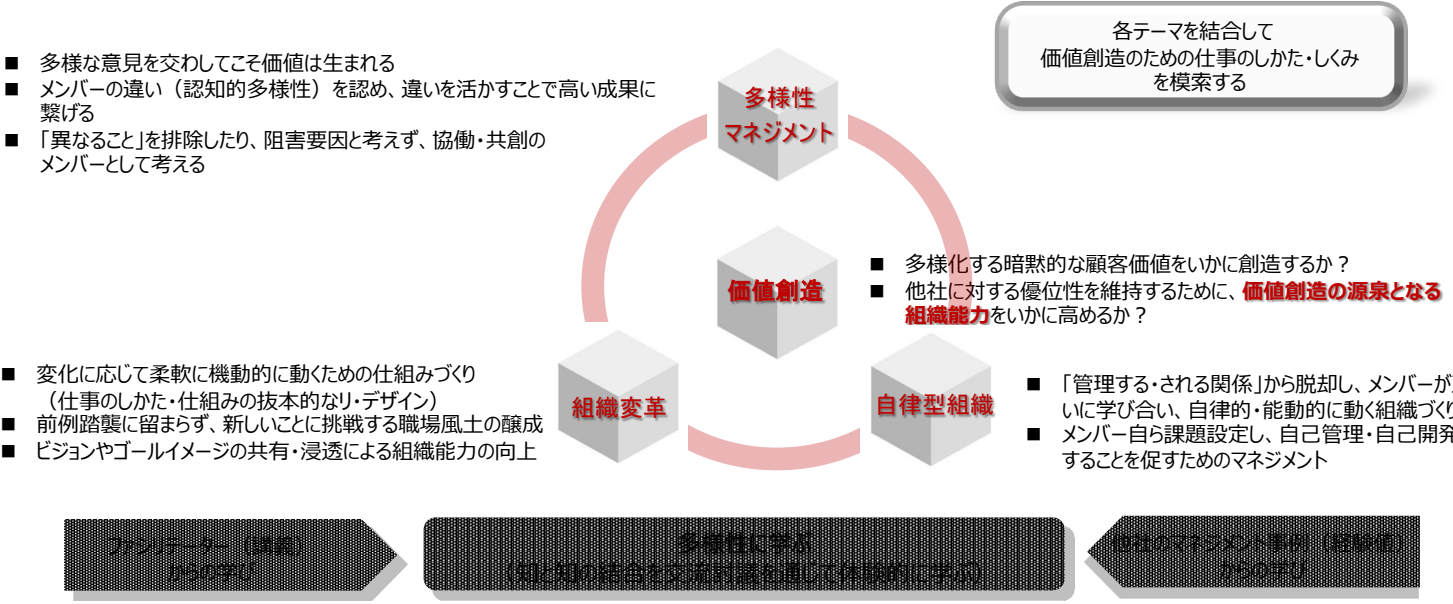
討議テーマと受講者の声

『将来に向けての価値創造や組織変革など、従来からの管理業務を超えたミドルに問われる課題を考察する』

この研修では、過去の成功体験やルールブックが通じない不確実性（VUCA）の高い現代において、継続的な価値創造のためにミドルとして取り組むべきマネジメント課題を模索します。これからのミドルマネジメントに問われるテーマとして、「新価値創造へのアプローチ」「組織変革へのリーダーシップ」「自部署を自立型集団に成させるには」「ダイバーシティ（多様性）マネジメント」の4つのビッグワードをもとに他社との交流を図ります。視座を上げて自部門・自部署を振り返ることで、従来からの組織管理に加え、次の部門経営を担うミドル層に期待される役割としての継続的な価値創造のためのマネジメントを模索します。



従来の組織管理に加え、次の部門経営を担うミドル層に期待される役割としての**継続的な価値創造のためのマネジメントを模索**



受講者の声

- ❖ 4つのテーマを深掘りしたが、今後このような上位概念を提示され、それに応えるという仕事が増えると思う。その意味でよい訓練にもなったと思う。
- ❖ 他社事例を踏まえて議論することで、課題へのアプローチの仕方や違った視点に気付くことができた。
- ❖ 他社の情報を聞いたことにより自社のプラス面、マイナス面を知ることが出来た。自社内の当たり前が当たり前でないという指摘や他社のスピード感を知ることが出来た。
- ❖ 他社のマネジメントについて生の声を聞くことで自分のものと比較することができた。改めて考えると自分に足りない事が多くマネジメント業務のあり方が見えてきた。
- ❖ 今まで考えていたマネジメントの役割が根本から覆された。ミドルがどう主体的に動かなければならないか痛切に考えさせられた。
- ❖ 自分事になって言ってくれるのはとても良い。上長との面談でもなかなか出てこないフィードバックを頂けた。

ご参加実績

日産自動車	本田技研工業	マツダ	SUBARU	三菱自動車工業
日産オートモーティブテクノロジー	富士通グループ	ソニーグループ	NECグループ	東芝グループ
アサヒビール	明治	セイコーエプソン	三菱重工業	小松製作所
明治	成田国際空港	味の素	江崎グリコ	Meiji Seika ファルマ
JTB	かんぽ生命保険	N T Tコミュニケーションズ	東日本旅客鉄道	京成電鉄
みずほ銀行	他	東レ	富国生命保険	三菱UFJ信託銀行
		ジャトコ	近鉄・都ホテルズ	ハウス食品グループ本社
		日立ハイテクノロジーズ	日立アプライアンス	日本航空
		*社名順不同		

対象

課長またはこれに準ずる職層